

家庭・学校・地域の連携強化

学校・家庭・地域と協働するPTA活動を目指して

扶桑町立高雄小学校PTA

1 はじめに

扶桑町立高雄小学校は、愛知県丹羽郡扶桑町の北部に位置し、自然と住宅地に囲まれた穏やかな環境の中で、令和7年度は517名の児童が学んでいる。本校では「強く・明るく・正しく」の校訓のもと、人として生きる力を育み、よりよい社会の担い手となる資質・能力の育成を目指している。教職員は「共有・協働・共創」を大切にし、

教育のDX化や人権意識を踏まえた指導を推進するとともに、地域との連携も重視しており、登下校時にはスクールガードの皆様が安全を見守り、読み聞かせや学習支援など地域ボランティアの方々が温かく支えてくださっている。また、「地域で育つ高雄っ子」をキーワードに、学校・家庭・地域が一体となって教育目標を共有し、郷土を愛し命を大切にする心豊かな児童の育成に取り組んでいる。緑豊かな環境づくりや教育相談の充実にも力を入れ、子どもたちが安心して成長できる学校づくりを進めている。

2 研究への取組

(1) 研究のねらい

学校・家庭・地域が手を取り合い、「共に育てる」気持ちを大切にしながら、子どもたちの健やかな成長を支えるPTA活動のあり方を考えていく。家庭との理解を深め、地域の教育力や人材を生かした協力体制を築くことで、笑顔あふれる学校づくりにつなげたい。また、「緑を育て、緑に学び、緑に集う」環境づくりを通して、地域に根ざした花いっぱいの学校を目指し、子どもたちの愛校心を育む取組についても探っていく。

(2) PTAの組織と活動の見直し

① 昨年度までのPTA活動

昨年度までの本校PTAは、役員6名（教員2名含む）を中心とし、各地区から世帯数の10分の1にあたる約40名の実行委員、地区委員が参加し、4つの専門委員会に分かれて活動を行った。各委員会では、行事の企画から当日の運営までを担い、担当時には仕事を休んで参加する保護者も見られた。ま



【扶桑町立高雄小学校】

た、参加人数に制限のある活動では、参加者の募集や選定に苦慮する場面もあり、委員の負担が大きくなる傾向があった。こうした状況を踏まえ、今後は活動の在り方や負担の軽減について見直す必要がある。

② 主体的な組織、活動に向けて

PTAを退会する世帯が出始め、より柔軟で主体的な組織づくりが不可欠となってきた。PTA加入世帯全体に声をかけながら、「できる人ができることをする」方針へと転換し、内容を精査し、必要なものに絞ることで、専門委員会を廃止した。これに伴い、今年度はPTA会費見直しも実施した。今後は、役員・実行委員が調整役となり、広く保護者に協力を呼びかけるとともに、地域学校協働活動との連携を図っていく。

3 実践活動の概要

(1) 登下校時の見守り活動

児童の安全な登下校を守るために、地域・保護者・学校が連携し、継続的な見守り活動を展開している。通学路には交通量の多い県道沿いを歩いたり踏切を横断したりするルートも複数あり、日常的に危険を伴う場面が存在する。そこで、全保護者に呼びかけて定期的な通学路点検を実施

し、地域住民だからこそ気付ける危険箇所の洗い出しを行っている。点検結果は行政へ報告し、押しボタン信号の青信号時間の調整、道路の補修、陥没箇所の改善、自動車運転者への注意喚起看板の設置など、地域の実情に即した対応が進められている。

これまで校区内全ての地区で旗当番制度により、保護者も登下校時の見守りを行っていたが、今年度からは地区の実態に合わせ、当番制を廃止し、登下校の時間帯に都合のつく保護者が自主的に見守り活動に参加する形へと移行したところも多い。これにより、保護者の負担軽減と柔軟な参加が可能となり、見守りの質も向上している。一方で、自主性に委ねることで見守り人数が日によって偏る可能性もあり、継続的な呼びかけや情報共有が重要である。

さらに、各地区から登録された約30名のスクールガードが、危険箇所に立ち、児童の安全確保に尽力している。地域の目と力を生かしたこの取組は、子どもたちの安心・安全な登下校を支えるだけでなく、地域の防犯意識の向上や世代間交流の促進にもつ



【スクールガードと連携した
見守り活動】

ながっている。今後も、見守り活動の継続と質の向上を図るため、地域全体での協力体制の強化が求められる。

(2) 校内、地域の美化を通した情操教育

「花いっぱいの学校づくり」を通して、児童の豊かな心を育む情操教育を推進している。昭和40年から続く全校参加の「F B C (フラワーブラボーコンクール)」活動は、生活科・理科・総合的な学習・図画工作・道徳など、教科横断的な学びの場として位置づけられており、児童一人一人が花と触れ合いながら命の尊さや美しさを感じる機会となっている。児童に「高雄小学校の特色は?」と尋ねると、多くが「お花がいっぱい」と答えるように、花を通じた教育活動は学校文化として根付き、地域にも「お花の学校」として親しまれています。

本校のメイン花壇は、毎年児童からデザイン画を募集し、そのアイデアをもとに構成される。播種やポットへの土入れなどの準備作業は児童が行い、土日の水やりは地域のボランティアの方々が担っている。こうした協働によって、児童は自然への関心や感謝の気持ちを育み、地域の方々は学校とのつながりを実感できる貴重な機会となっている。

これまで、花の移植作業はPTAの専門委員「環境整備」が中心となって行っていたが、今年度からはその枠を広げ、全保護者に向けて参加を呼びかける形に変更した。初めての試みであったが、約40名の保護者が自主的に参加し、児童とともに委員会の時間に移植作業を行った。自発的な参加であったことから、保護者の表情も明るく、活動への積極的な関わりが見られた。

また、学校敷地内だけでなく、地域の各地区にも花壇が設けられており、そこには高雄小学校から配付された苗をPTA役員が定植し、児童とともに管理している。さらに、校外美化活動の一環として、地域の幼稚園・保育園・小中学校・公共施設、そして



【本校のメイン花壇】



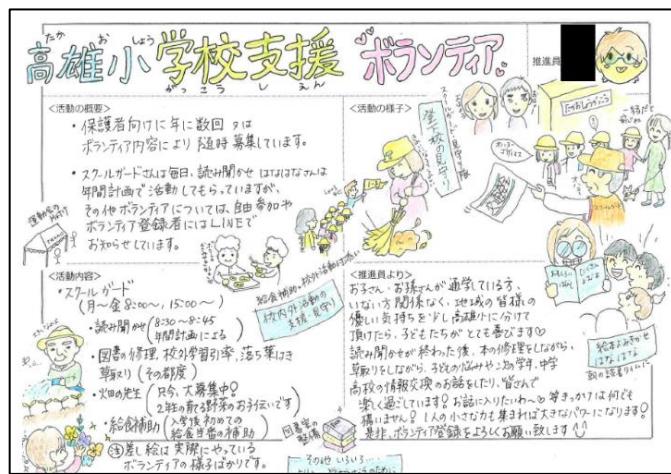
【花苗の移植作業風景】

希望する家庭にも花苗を配付しており、地域全体で「花いっぱいのまちづくり」が進められている。

こうした活動を持続可能なものにしていくためには、児童・保護者・地域・教職員がそれぞれの立場で無理なく関われる仕組みづくりが重要である。例えば、作業の分担や年間スケジュールの明確化、活動の意義を共有する機会の設定、現在も進めているボランティアの登録制度の整備、拡充などが考えられる。また、児童が主体的に関われるよう、授業との連動や振り返り活動を充実させることで、学びの深まりと継続的な関心につなげたい。

(3) 学校支援ボランティア活動の充実

本校では、地域社会との緊密な連携を大切にしながら、多くのボランティアの方々の力を借りて教育活動を進めている。活動内容は多岐にわたり、スクールガードによる登下校の見守り、読み聞かせ、図書の修繕、校外学習の引率補助、落ち



【ボランティア募集のちらし】

葉掃きや草取り、さらには2年生の野菜づくりを支える「畑の先生」など、日々の学校生活のさまざまな場面で地域の温かな支援が息づいている。子や孫が在籍している方に限らず、地域の皆様が「子どもたちのために」と思いを寄せてくださることが、学校の大きな力となっている。来校時には授業や運動会練習の様子を見学いただく機会もあり、学校の雰囲気や子どもたちの成長を実感していただける。こうした関わりは、地域の教育力の向上や世代間交流の促進にもつながる一方、活動の継続には参加者の偏りや負担感への配慮も必要である。

4 おわりに

「地域で育つ高雄っ子」を教育の柱とし、学校・家庭・地域が一体となって、郷土を愛し命を大切にする心豊かな児童の育成に取り組んできた。こうした連携の中で、花を通じた交流や見守り活動など、地域の方々の温かな支援が子どもたちの成長を支えている。今後も、無理のない参加の仕組みづくりや、感謝の気持ちを丁寧に伝える工夫を重ねながら、誰もが気持ちよく関われる持続可能な地域連携を築いていきたい。地域に根ざした温かい学校づくりを通して、子どもたちが人とのつながりを実感しながら、豊かな心を育んでいけるよう努めていく。